

国立公園におけるエゾシカ対策について

北海道地方環境事務所

1. 利尻礼文サロベツ国立公園

エゾシカの生息状況や生態系への影響等の既存情報を収集・整理中。

2. 支笏洞爺国立公園

(1) 洞爺湖中島

地元自治体や関係機関で構成する「洞爺湖中島エゾシカ対策協議会」で策定した洞爺湖中島エゾシカ管理計画（令和3年3月承認）に基づき、管理目標の達成に向けた手法検討を実施。

（今年度の主な事業内容）

- ① 試験捕獲（湖上モバイルカリング、島内ストーキング、くくり罠、ハイシート、小型囲い罠、捕獲個体の島外搬出処理）
- ② 今後の管理方針の検討等

(2) 支笏湖

これまで行われてきたエゾシカの生息状況や生態系への影響等の既存情報を踏まえ、エゾシカ管理方策およびモニタリング計画について検討する。

（今年度の主な事業内容）

- ① エゾシカ生息状況の把握
 - 1) 自動撮影法；支笏湖周辺の8箇所を実施。
- ② エゾシカによる生態系等への影響把握
 1. 森林生態系への被害状況；支笏湖周辺の8箇所程度で実施。
 2. 植物群落の状況把握；支笏湖周辺の8箇所を実施。

3. 知床国立公園

釧路自然環境事務所、北海道森林管理局及び北海道が令和4年4月に策定した知床半島エゾシカ管理計画に基づき、生態系維持回復事業計画等の各種計画と相互に連携するとともに、知床世界自然遺産地域科学委員会エゾシカWGの助言を受けつつ、以下の事業を実施。

（今年度の主な事業内容）

- ・シカの生息状況等に応じた個体数調整を実施。
- ・知床岬地区においては効果的かつ効率的な対策手法の検討を実施。
- ・生息状況等のモニタリングとして、植生調査を実施し、エゾシカの航空カウント調査（世界自然遺産地域内）を予定。

4. 釧路湿原国立公園

生態系維持回復事業計画に基づき、以下の事業を実施。

(今年度の主な事業内容)

- ・湿地林における植生調査
- ・広域的な植生への影響把握調査の手法検討
- ・右岸堤防沿い及びその周辺における囲い罠による個体数調整、くくり罠による捕獲の検討
- ・釧路湿原エゾシカ対策検討会議の開催
(事業の結果報告及び評価、関係機関との情報共有等)

5. 阿寒摩周国立公園

生態系維持回復事業計画に基づき、以下の事業を実施。

(今年度の主な事業内容)

- ・植生モニタリング計画に係る植生調査
- ・対策検討に係る基礎データとして個体の行動圏の把握を目的とした GPS 首輪装着個体（5 頭）の行動追跡調査
- ・関係者間での情報共有のあり方及び仕組みづくり検討

- ・現地研修会及び阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会の開催
(事業の結果報告及び評価、関係機関との情報共有等)